

◆2021年海員春闘中央交渉スタート

―海員春闘― 労働協約の有効期限内決着を目指す

日本カーフェリー労務協会との第1回交渉、全内航との第1回交渉を実施

本組合は2月末に令和3年度労働協約改定要求書を各船団に提出し、3月1日にホテルマリナーズコート東京（海員福祉研修会館）において、日本カーフェリー労務協会との第1回交渉、全内航との第1回交渉が開催された。今年度の海員春闘の中央交渉は、ソーシャルディスタンス、マスク、アルコール消毒など、新型コロナウイルス感染症対策を万全にした上で行われた。

当日予定していた内航二団体（内航労務協会・一洋会）との交渉は、一洋会は交渉の準備を整えていたが、内航労務協会が交渉の席に着かなかったため、内航二団体との交渉は実施できなかった。

一方、第1回目の交渉を実施した日本カーフェリー労務協会、全内航とのそれぞれの交渉では、労使双方の交渉委員の紹介、船団側と組合代表のあいさつ、交渉運営の確認、続いて組合から要求の趣旨説明を行い、次回以降、逐条ごとの審議に入る。

森田保己組合長のあいさつ

《令和3年度第1回日本カーフェリー労務協会との労働協約改定交渉でのあいさつ》

日本カーフェリー労務協会との令和3年度労働協約改定交渉を開始するにあたり、組合を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

はじめに、2月13日に発生した福島沖を震源とする地震は東日本大震災の余震とみられ、東北地方を中心に大きな被害をもたらしました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興・復旧をお祈り申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が発令され、国民生活や経済活動が制限されるなど、かつてない1年となりました。その一方でワクチン接種は世界中で進み、国内においても先月17日からワクチン接種が開始されるなど、感染予防対策はもとより、我々の生活や経済の立ち直りに大きな期待が寄せられています。

カーフェリーで働く船員は、国民生活を支える物流の重要な役割を担うとともに、このコロナ禍においても、感染防止対策を施しているとはいえ、感染リスクと向き合いながら、生活に欠かせない物資輸送を停滞させることなく職務を遂行し、日夜安全運航に努めており、国内物流の安定輸送を確保するためには、船員は不可欠です。

日本各地の主な港を結ぶカーフェリーは、全国的なネットワークを構築するなかで、環境問題やトラックドライバー不足を背景に、大量輸送を可能とするモーダルシフトによる貨物輸送量の更なる増加が期待されております。

また、大規模自然災害時における緊急支援物資輸送などの手段として、その重要性が再認識されています。

その一方で、カーフェリー業界においても船員の高齢化は進んでおり、若年船員の定着率の悪化などに歯止めがかかっておらず、優秀な人材を確保・育成していくためには、労働条件・労働環境の改善が必要不可欠であります。

今次労働協約改定交渉においては、業界の置かれている状況を十分に勘案し、組合員の雇用と生活の安定、魅力ある職場環境の構築に向け、必要な要求を策定しました。

本年はコロナ禍での労働協約改定交渉となりますが、このような時期だからこそ、これまで築き上げてきた労使の信頼関係に基づき、期限内円満解決に向けた真摯な協議をお願いし、組合を代表してのあいさつと致します。

「海員だより」